

あれ？これかあ



ICHIKAWA LIBRARY

参考業務月報

2022年12・2023年1月号

発行：市川市中央図書館 編集：レファレンスカウンター 〒272-0015 市川市鬼高1-1-4 TEL. 047-320-3346

	INF	REF	こども	電話	メール	中央計	行徳	BM	南行	信篤	平田	駅南	全館計
12月	604	442	327	4	1	1,378	1,479	61	187	169	133	423	3,830
1月	511	393	348	5	6	1,263	1,321	71	144	153	156	381	3,489
累計	6,291	4,482	4,091	78	65	15,007	14,887	584	1,871	1,468	1,258	5,037	40,112

INF:インフォメーション・カウンタ REF:レファレンス・カウンタ BM:自動車図書館

📖 今月のレファレンス記録票から

分類

質問と内容

319.1 現代の日本の領土がどの様に確定していったのか、その歴史的経緯がわかる資料を探している。主権国家の領土はどうやって決まるかがわかる入門書もあれば見たい。

日本の領土確定の歴史的経緯については、『日本の領土』（芹田健太郎／著 中央公論新社 2002）p.18-66の「第一章 日本の領土の変遷」に、「日本が近代国家として西欧諸国に門戸を開き交易を迫られるようになると周辺領域つまり周辺の諸島の帰属を明確にすることが求められた。こうして幕末から明治期にかけて日本の周辺の領土の確定が行われることとなったのである。」との記述がある。また同書 p.11には、「現在の日本の領域は、基本的には1945年（昭和20年）7月のポツダム宣言および1951年9月の対日平和条約によって定められている。」と記載されている。

『史料検証日本の領土』（百瀬孝／著 河出書房新社 2010）には、幕末から明治・大正・昭和後期までの日本近代の領土史が史料を示しながら詳細に記載されている。p.24には「近代以前の領土問題」として、「日本の領域として昔から誰も疑わず、どの外国も領土として支配したことがなく、紛争の種にもなっていない土地、すなわち北海道、本州、四国、九州およびその附属島嶼が古来の日本国である。」とある。また、p.162-169 史料 67のポツダム宣言には、「日本の主権は本州、北海道、九州、四国各島およびわれわれの決定するいくつかの小さな島に限定される。」と記されている。

主権国家の領土確定については、『国際法入門 第2版』（横田洋三／編 有斐閣 2005）p.136に、「国境線は、山や川などの自然的障害線を使う場合もあるが、条約により定められることも少なくない。国境に関する合意（条約）が成立している場合でも、その条約の解釈や適用をめぐる利害が対立し、紛争が発生することもある。このことは、国境画定の基準について、国際法上決まった規則が確立していないことを示している。」との記述がある。

また、以下の資料にも比較的わかりやすい記載がある。

『はじめての国際法 第4版（3日でわかる法律入門）』（尾崎哲夫／著 自由国民社 2020）

p.112-146 「6時間目 国際公法その2 国家／国家領域「陸」「海」「空」／宇宙空間」

『ビジュアルテキスト国際法 第2版』（加藤信行／[ほか]編著 有斐閣 2020）

p.49-61 「Chapter 5 領土のない国はない 陸・空、そして宇宙」

332.2 1980年代以後のインドで鶏を中心に畜産業が盛んになった、いわゆる「ピンクの革命」について書かれている文献はないか。インドの第一次産業について現代の動向・傾向などが分かる文献も探している。

- 市川市所蔵の資料では「ピンクの革命」についての文献は確認できなかった。
 国立国会図書館サーチ キーワード「ピンク」「革命」「インド」で検索し以下の2件の記事・論文が見つかった。「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)でダウンロード可能。
- ・後藤拓也「インドにおける鶏肉産業の発展とブロイラー養鶏地域の存立基盤:北インド・ハリヤーナー州を事例に」(『日本地理学会発表要旨集 2017年度日本地理学会春季学術大会』日本地理学会 1997) (https://www.jstage.jst.go.jp/article/ajg/2017s/0/2017s_100308/article/-char/ja/ 2023/3/1 確認)
 - ・後藤拓也「ブロイラー養鶏産業の立地シフトと新興産地の形成プロセス」(『地理科学』2018年73巻3号 p.114-126 地理科学学会) (https://www.jstage.jst.go.jp/article/chirikagaku/73/3/73_114/article/-char/ja/ 2023/3/1 確認)
- インドの第一次産業について現代の動向に関する当館所蔵資料は以下の通り。
- 『現代インドを知るための60章』(広瀬崇子, 近藤正規, 井上恭子, 南埜猛/編著 明石書店 2007) p.174-178 「Ⅲインド経済の光と影 第31章 本腰を入れた取り組みが期待される農業・農村開発」
 - 『現代南アジア 2 経済自由化のゆくえ』(絵所秀紀/編 東京大学出版会 2002) p.97-119 「第4章 インド農業論」
 - 『現代インド・南アジア経済論』(石上悦朗, 佐藤隆広/編著 ミネルヴァ書房 2011) p.127-148 「第5章 農業」
- インドの第一次産業についての各種統計としては以下の資料がある。
- 『世界統計年鑑 64集(2021)』(国際連合統計局/編集 原書房 2022) p.273 産業別雇用、p.299 農業生産指数の国別統計
 - 『世界の統計 2022』(総務省統計局/編集 日本統計協会 2022) p.77 農用地面積、p.79 農業生産指数の国別統計、p.81-84 農業生産量の品目ごとに生産量の多い15か国を掲載。p.84に鶏飼養数がありインドは7位。
 - 『世界国勢図会 2022/23』(矢野恒太記念会 2022) p.197 農林水産業の概況として就業人口、農地面積の国別統計、p.236 各国の畜産業 家畜頭数の統計に鶏の項目がある。
- インターネットでも以下で統計を見ることができる。農林水産省 Web サイトの政策情報>国際貿易>海外農業情報・貿易情報の下にある主要国の農業概況>インド>「インドの農林水産業概況」として、GDPや農用地に占める比率、主要農畜産物の生産状況、農林水産物貿易の概要等 (https://www.maff.go.jp/j/kokusai/kokusei/kaigai_nogyo/attach/pdf/index-140.pdf 2023/3/16 確認)。

他にもこんな質問ありました (クイック・レファレンスから)

分類	質問	⇒ 回答、補足事項、蘊蓄など
I/F1	昭和30年代の市川市の商工関連の本⇒『市川市勢要覧附商工名鑑 1952年』(市川市役所経済課/編 市川市役所 1952)『昭和前期日本商工地図集成 第1期 東京・神奈川・千葉・埼玉』(地図資料編纂会/編集 柏書房 1987)を紹介。	
146	『Counseling and Psychotherapy』の日本語訳(友田不二男/訳)と原著が読みたい。⇒日本語訳は『臨床心理学』(カール・R・ロージャズ/著 友田不二男/訳 創元社 1951)野田市立図書館蔵書、原著は『Counseling and Psychotherapy: newer concepts in practice』(Carl R. Rogers Houghton Mifflin company 1942)千葉大学附属図書館蔵書を提供。	
188.7	阿弥陀仏の名号で、十字名号である ^{きみょうじんじつぼうわげこうじょうらい} 帰命尽十方無碍光如来についてと、その他の字数の名号について知りたい ⇒『真宗新辞典』(真宗新辞典編纂会/編集 法蔵館 1984)で、十字名号はp.99、六字名号である南無阿弥陀仏はp.383、名号の説明はp.472-473を紹介。	
483.9	ヒルのことが分かる本⇒『ヒルは木から落ちてこない。ぼくらのヤマビル研究記』(樋口大良/著 子どもヤマビル研究会/著 山と溪谷社 2021)『危険・有毒生物(フィールドベスト図鑑 Vol.17)』(学研教育出版, 学研マーケティング(発売) 2013)『図説世界の吸血動物』(葛西真治[ほか]/編著 グラフィック社 2022)を紹介。	
728.0	日下部 ^{めいかく} 鳴鶴(書家)について⇒明治から大正期の書壇の大家(1838-1922)。『書の総合事典』(井垣清明他/編著 柏書房 2010) p.437-438を紹介。	